Color Science Association of Japan

中国古典字典における漢字の黒色表現についての研究

A Study on the Color Names which express Black in Classical Chinese Dictionaries

曾啓雄 Chi- ShoungTseng 雲林科学技術大学 National Yunlin University of Science and Technology Technology

小林昭世 Akiyo Kobayasi 武蔵野美術大学 Musasino Art University

Keywords: 黒，色名，漢字、中国、色彩文化

1．はじめに

中国の漢字は甲骨文から発展し、各時代に少しずつで変化し、数を増やして今に至る。最も古く遡ることができる漢字の字体は甲骨文である。甲骨文は漢字研究においては原点といえるだろう。甲骨文の文字構造は、大抵、形により表現されたもの（象形）である。しかしながら、色彩は特定の形を持たないから、何かの形を借りて表現された。形を借りたものが共通の生活経験に立ったものでなければ、伝達の機能を果たしえない。

甲骨文以降、中国の各時代に編集された字典において、いかに黒が解釈され、黒が何によって表現されたか、中国の各時代において、新しい文字が作られたが、黒色についての色名がいかに変貌して今の状態に至ったか、それらが本研究の目的である。

2. 研究の資料と方法

本研究は歴史上代表的な字典において、色彩を表現する文字と文字の意味から、黒について考察する。その資料とした字典は以下の 9 冊である。時代順に、秦の李斯の倉頡篇、孔子時代といわれているが、作者未明の爾雅と西漢史游の急就篇、東漢許慎の説文解字、三国魏張揖広雅、南朝梁顧野王玉篇、宋陳彭年集韻、明張自烈正字通、清張玉路と陳廷裕などによる康熙字典である。これらの字典のうち、倉頡篇と急就篇、爾雅は子供の学習のために作られ、文字の数が少なく、他の字典と編集目的が違うが、参考とした。字典は字の形、音、義（意味）に沿って編集され、それにより解釈も異なる。例えば緑は、形による字典では青と黄の混色でできた色と説明されるが、音により編集された字典では水の流れの音によりつくられた文字である。説文解字は形により編集され、9353 文字が集められた。広雅は義によって編集され、18150 字からなる。玉篇は形により、22726 字でからなる。集韻は音により編集され、26194 字からなる。正字通は形により編集され、33419 字からなる。康熙字典は形により編集され、47035 字からなる。これらの字典に載っている色彩に関する文字は多いので、今回は、色を表現する文字数の最も多い黒をとりあげる。黒を表現する文字の数は、ほぼ 170 字である。その解釈において、例えば灰や黒に近い低明度の有彩色表現等、微妙な色名もあるので、黒の色名数を正確に明示することは困難である。色名は、これらの字典の中では康熙字典に最も集約されている。康熙字典は歴代字典に載っているものを集めて編集された。その他の字典に比べ、財力と人力の規模はずっと大きい。しかし、解釈については詳しい説明が少なく、簡約的な引用や説明である。

3. 黒についての概念

黒の概念と表現は複雑である。例えば灰色は、古くは、黒という文字を使って表現され、また黒を基礎として他の文字を組み合わせて表現される。したがって、文字による色彩研究は、色名相互の関係性の構造において、西洋近代の色彩研究とは異なる。

甲骨文には黒系の文字表現として、黒、玄、幽、冥、烏、皁がある。文字の形によると、黒は火の部首で、炙る煙ででた色である。玄には複数の説があり、蚕の糸であるが、ほこりの落下により帽子状のものを被ってゆっくり灰色になり、さらに黒くなった。他説では燻された色である。幽は文字構造から見ると、玄と同じ糸からできた色である。冥は光が少なく暗いことである。烏は黒い烏、その黒さを表現した。皁は団栗であり、木の上の実の形、黒の染料として昔の文献に載っている。歴代の字典を見ると、黒の部首には多くの文字がある。説文解字には以下の３０字がある。

黑、黔、黕、黜、黚、黜、黝、黠、黛、黟、黠、黯、黥、黯、黯、黯

Color Science Association of Japan

康熙字典に至っては124字がある。
黑、黜、默、黜、黜、黔、黕、黜、默、黕、黕、黚、黥、黜、黝、黝、黝